

Business Report



ONO'S VIEW

第64期のご報告

平成23年4月1日～平成24年3月31日

小野薬品工業株式会社
証券コード 4528

Dedicated to Man's Fight against Disease and Pain

病气と苦痛に対する人間の戦いのために

当社は、この経営理念のもと、いまだ満たされない医療ニーズに応えるため、
真に患者さんのためになる革新的な新薬の創製を目指し、努力を続けています。

目次

株主の皆さまへ	01
営業の概況(連結決算)	02
利益還元方針	04
次期の見通し	05
連結財務諸表	06
製品情報	08
研究開発活動	09
提携活動	12
TOPICS	14
会社の概要	16
株式の状況	17



1968年(昭和43年)に中央研究所(現在の水無瀬研究所)の建設を記念して
建立されたモニュメント。小野薬品の経営理念がここに刻まれています。

株主の皆さまへ



株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご支援、ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

第64期（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）につきましては、新製品を中心とした主力製品の積極的な学術情報活動により売上拡大をはかるとともに、経営全般にわたり効率化に努めました結果、増収増益を達成することができました。現在、医薬品業界においては、新薬創製の成功確率が年々低下し、世界的に研究開発コストが増大する一方、種々の医療費抑制政策が進展するなど、厳しい環境が続いています。こうしたなか、わたしたちは三つの課題に対する取り組みを一層推し進めています。

一つ目は「国内市場の営業基盤の強化」です。薬価の改定や医療費抑制のための諸施策による影響を最小限に抑えるべく、新製品の評価を早期に確立し、売上拡大に努め、売上に占める新製品の比率を高めていきます。

二つ目は「開発パイプラインの拡充」です。世界最先端の技術を活用した、独創的かつ画期的な医薬品創製を加速する取り組みを進めるとともに、積極的なライセンス活動にも注力していくことで、今後も継続的な新薬上市につながる開発パイプラインの拡充に努めていきます。

三つ目は「海外での自社化合物の承認取得」です。自社で生み出した新薬を世界中でご使用いただけるよう、グローバルな事業展開を推進していきます。まずは、提携企業への導出や海外企業との連携・提携により、自社創製化合物が海外で承認を取得し、発売されることを目指します。

当社は、「病気と苦痛に対する人間の戦いのために」という経営理念のもと、いまだ満たされない医療ニーズに応えるため、真に患者さんのためになる革新的な新薬の創製を目指し、積極的な努力を続けていきます。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

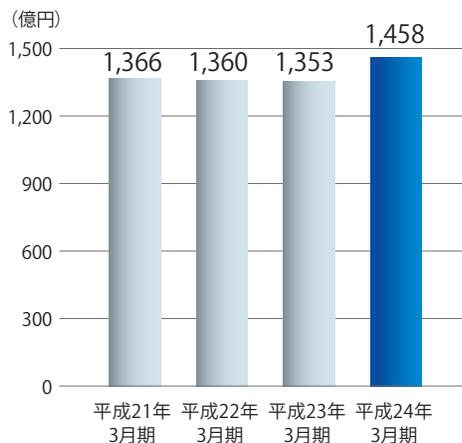
代表取締役社長

相良 暁

営業の概況 (連結決算)

売上高

1,458億円 前期比**7.8%増**

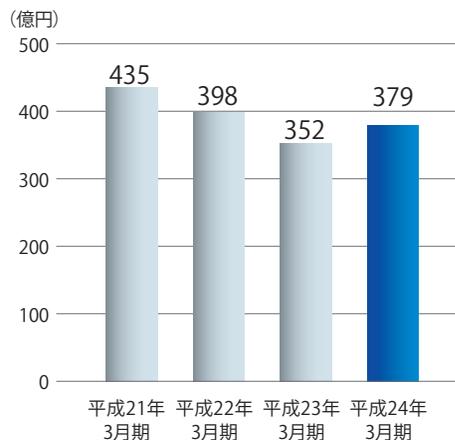


新製品の伸長などにより、 大幅な増収を達成

2型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」や抗悪性腫瘍剤の投与に伴う悪心・嘔吐の治療剤「イメンドカプセル」が大きく売上を伸ばしたことに加え、アルツハイマー型認知症治療剤「リバスタッチパッチ」や、4週に1回服用する骨粗鬆症治療剤「リカルボン錠50mg」などの新製品も業績に寄与し、当期の売上高は前期比105億円(7.8%)増の1,458億円となりました。

営業利益

379億円 前期比**7.7%増**

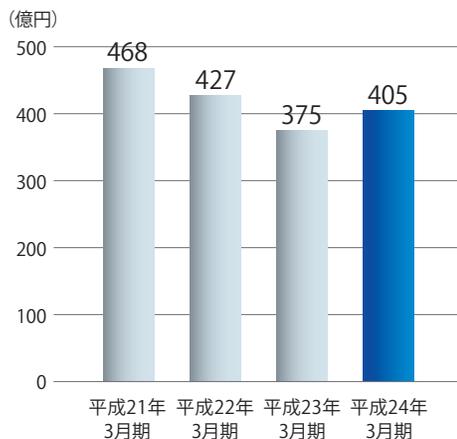


売上原価や研究開発費が増加するも、 増収効果により増益

原価率が高い新製品(導入品)の売上拡大に伴い売上原価が増加しました。また、販売費及び一般管理費も研究開発費や営業関連経費を中心に増加しましたが、増収の効果が大きく、営業利益は前期比27億円(7.7%)増の379億円となりました。

経常利益

405億円 前期比 **7.8%増**

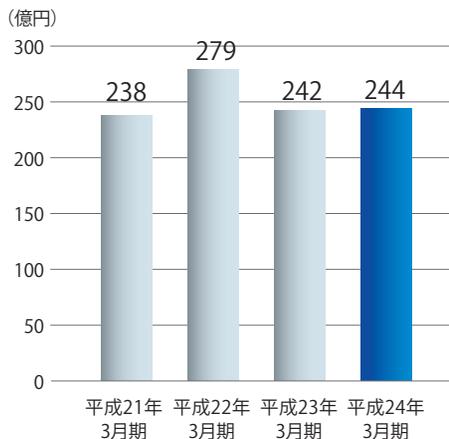


営業外費用の減少などにより増益

営業外費用の減少により営業外収支が前期比2億円増の25億円となりました。その結果、経常利益は前期比29億円(7.8%)増の405億円となりました。

当期純利益

244億円 前期比 **0.6%増**



法人税率変更の影響などにより税金費用が増加し、微増益にとどまる

特別損益は、前期と比較して損失が2億円減少しました。一方で、法人税率変更の影響などにより当期の税金費用が前期と比較して30億円増加しました。その結果、当期純利益は、前期比1億円(0.6%)増の244億円となりました。

営業の概況 (連結決算)

財政状態

	当期	前期	増減
総資産(億円)	4,364	4,244	+120
純資産(億円)	4,010	3,946	+64
自己資本比率(%)	91.2	92.1	△0.9
1株当たり純資産(円)	3,753.04	3,685.23	+67.81

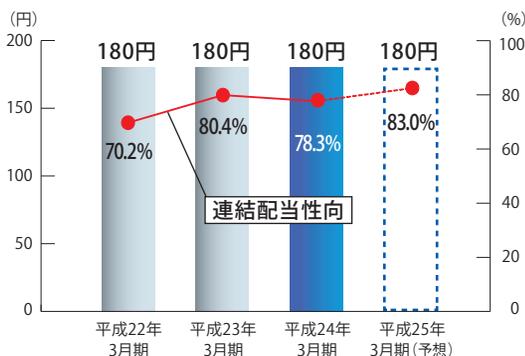
キャッシュ・フローの状況

(単位:億円)

	当期	前期	増減
現金及び現金同等物期首残高	826	721	
営業活動によるキャッシュ・フロー	216	298	△82
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1	111	△112
財務活動によるキャッシュ・フロー	△191	△303	+113
換算差額	1	△1	+2
増減	25	105	
現金及び現金同等物期末残高	851	826	

利益還元方針

過去3年の年間配当実績と次期予想



株主の皆さまへの利益還元を経営の重要政策の一つと位置づけ、安定的な配当の継続を重視しつつ、業績に応じた成果の配分を行っていきたく考えています。

当期の期末配当金につきましては、1株につき90円とさせていただきます。これにより、年間にお支払いする配当金は、中間配当金90円と合わせて1株につき180円となります。次期の配当金につきましては、1株につき180円(中間90円、期末90円)を予定しています。

次期の見通し (平成25年3月期)

売上高

1,462億円 前期比 **0.3%増**

「グラクティブ錠」をはじめ、今期順調に推移した新製品が引き続き伸長するものと見込んでいます。一方で、薬価改定や新たな後発品普及促進策によるマイナスの影響もあり、次期の売上高については前期比4億円(0.3%)増の1,462億円を予想しています。

営業利益

327億円 前期比 **13.7%減**

原価率の高い新製品(導入品)の売上比率が一層高まるものと想定しています。また、積極的な研究開発活動などにより、販売費及び一般管理費も増加する見込みですので、次期の営業利益は前期比52億円(13.7%)減の327億円を予想しています。

経常利益

341億円 前期比 **15.7%減**

金利低下による運用収益が減少するほか、営業外費用の増加などもあり、営業外収支が前期比12億円減の14億円程度になるものと見込んでいます。よって次期の経常利益は前期比64億円(15.7%)減の341億円を予想しています。

当期純利益

230億円 前期比 **5.6%減**

保有目的の見直しに伴う投資有価証券売却益7億円の計上を見込んでいます。また税制改正に伴う税金費用の減少も見込まれるため、次期の当期純利益は前期比14億円(5.6%)減の230億円を予想しています。

連結財務諸表

連結貸借対照表の要旨

(単位:百万円)

科目	期別	前期	当期
		平成23年 3月31日現在	平成24年 3月31日現在
(資産の部)			
流動資産		191,370	202,235
現金及び預金		22,445	20,959
受取手形及び買掛金		36,704	37,853
有価証券		103,524	104,813
たな卸資産		13,047	18,637
繰延税金資産		13,641	14,808
その他		2,015	5,168
貸倒引当金		△ 9	△ 5
固定資産		233,072	234,177
有形固定資産		48,616	47,979
建物及び構築物		22,542	22,643
土地		22,551	22,549
その他		3,521	2,786
無形固定資産		955	994
投資その他の資産		183,501	185,203
投資有価証券		167,953	168,690
繰延税金資産		5,764	4,579
その他		9,788	11,941
貸倒引当金		△ 4	△ 8
資産合計		424,442	436,413

(単位:百万円)

科目	期別	前期	当期
		平成23年 3月31日現在	平成24年 3月31日現在
(負債の部)			
流動負債		26,198	31,041
支払手形及び買掛金		5,324	5,767
1年内返済予定の長期借入金		1	1
未払法人税等		7,422	8,875
引当金		5,681	5,858
その他		7,767	10,538
固定負債		3,672	4,403
長期借入金		12	11
長期未払金		83	72
引当金		579	1,659
繰延税金負債		2	22
再評価に係る繰延税金負債		2,930	2,569
その他		63	67
負債合計		29,870	35,445
(純資産の部)			
株主資本		395,754	401,021
資本金		17,358	17,358
資本剰余金		17,079	17,079
利益剰余金		435,536	425,787
自己株式		△ 74,219	△ 59,204
その他の包括利益累計額		△ 5,042	△ 3,129
その他有価証券評価差額金		4,162	5,725
土地再評価差額金		△ 8,938	△ 8,577
為替換算調整勘定		△ 266	△ 277
少数株主持分		3,860	3,076
純資産合計		394,572	400,968
負債純資産合計		424,442	436,413

連結損益計算書の要旨

(単位:百万円)

科目	期別	前期	当期
		自平成22年4月1日 至平成23年3月31日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
売上高		135,255	145,778
売上原価		24,759	28,986
売上総利益		110,496	116,792
販売費及び一般管理費 (研究開発費)		75,295 (42,938)	78,888 (44,382)
営業利益		35,200	37,904
営業外収益		3,489	3,446
営業外費用		1,147	896
経常利益		37,541	40,454
特別利益		—	272
特別損失		641	717
税金等調整前当期純利益		36,899	40,009
法人税、住民税及び事業税		12,669	15,525
法人税等調整額		△ 248	△ 150
少数株主損益調整前当期純利益		24,479	24,634
少数株主利益		257	273
当期純利益		24,222	24,360

※ 1株当たり当期純利益

223円88銭

229円78銭

連結株主資本等変動計算書の要旨

(単位:百万円)

	当期首	当期中の	当期末
	平成23年 4月1日現在	変動額	平成24年 3月31日現在
資本金	17,358	—	17,358
資本剰余金	17,079	—	17,079
利益剰余金(注)	435,536	△ 9,748	425,787
自己株式	△ 74,219	15,014	△ 59,204
株主資本合計	395,754	5,266	401,021
その他有価証券評価差額金	4,162	1,562	5,725
土地再評価差額金	△ 8,938	360	△ 8,577
為替換算調整勘定	△ 266	△ 10	△ 277
その他の包括利益累計額合計	△ 5,042	1,913	△ 3,129
少数株主持分	3,860	△ 783	3,076
純資産合計	394,572	6,395	400,968

(注) 利益剰余金の変動要因

剰余金の配当	△ 19,083百万円
当期純利益	24,360百万円
自己株式の消却	△ 15,025百万円

主な製品の売上高の状況

製品名	平成23年度 売上高(実績) (億円)	対前期 増減率 (%)	平成24年度 売上高(見込み) (億円)	対前期 増減率 (%)
オパルモン錠	395	△1.5	355	△10.1
グラクティブ錠	279	+150.7	330	+18.4
オノンカプセル	191	△11.2	165	△13.7
キネダック錠	112	△15.1	90	△19.7
フオイパン錠	102	△7.2	85	△16.4
リカルボン錠	35	+80.3	80	+127.5
オノンドライシロップ	76	△11.0	75	△1.4
イメンド/プロイメンド	67	+41.6	75	+11.7
ステーブラ錠	61	+4.8	70	+14.3
注射用エラスポール	44	△12.5	40	△8.1
リバスタッチパッチ	12	(平成23年7月発売)	38	+208.6
注射用オノアクト	33	△5.9	36	+7.8

平成23年度に発売した新製品



アルツハイマー型
認知症治療剤
「リバスタッチパッチ」



冠動脈 CT における
描出能改善剤
「コアベータ静注用」



骨粗鬆症治療剤
「リカルボン錠 50 mg」



抗悪性腫瘍剤投与に伴う
悪心・嘔吐治療剤
「プロイメンド点滴静注用」

「真に患者さんのためになる 医薬品を開発して社会に貢献する」

わたしたちはこの理念のもと、積極的な努力を積み重ねています。



わたしたちは、「真に患者さんのためになる医薬品を開発して社会に貢献する」ことを研究開発理念とし、治療満足度が低く、医療ニーズの高い疾患領域に挑戦し、独創的かつ画期的な医薬品の創製に向けて努力を積み重ねています。

創薬の方針としては、これまで新薬創製のプロセスにおいて、脂質や酵素阻害などを重点領域と定め、各種標的に対する作用を持つ化合物をライブラリーとして蓄積し、その中から疾患や治療に結びつく薬剤を探し出す「化合物オリエント」という創薬手法で独創的な新薬を創製してきました。現在、疾患や治療に関連した化合物をより早

く高い精度で探し出す技術を導入するなど、改良を加えた新たな「化合物オリエント」による新薬創製を進めています。また、世界最先端の知見や技術を有する研究機関や大学、ベンチャー企業などとの提携を機動的に行い、創薬研究の効率を高め、新薬創製の成功確率を向上させます。現在、開発パイプラインには、抗体医薬品を含む抗がん剤、がん悪液質の治療薬、オピオイド鎮痛薬の使用に伴う難治性便秘の治療薬など、がん治療およびその支持療法の領域の新薬候補化合物をはじめ、多発性硬化症や関節リウマチの治療薬候補などがあり、早期の上市に向けて開発を進めています。なかでも、がん治療およびその支持療法の領域はアンメットニーズが高いことから、当該領域を新たな戦略分野と位置づけ、支持療法を含むがん患者さんの包括的薬物治療への貢献を目指します。

今後も国内外での世界最先端技術を活用した独創的かつ画期的な医薬品の創製に努めるなど、研究開発活動の一層の強化に取り組みます。

研究開発活動

開発品の進捗状況

国内

(平成24年5月9日現在)

製品名 (開発コード)	対象疾患	薬理作用	開発ステージ			
			PI	PII	PIII	申請
グラクティブ錠 (ONO-5435)	2型糖尿病 (速効型インスリン分泌促進薬との併用療法)	DPP-4 阻害作用	→	→	→	
グラクティブ・ メトホルミン配合錠	2型糖尿病	DPP-4阻害作用及び肝糖新生抑制 作用・インスリン抵抗性改善作用	→	→	→	
ONO-4164SC	関節リウマチ	T細胞活性化抑制作用	→	→	→	
注射用オノアクト (ONO-1101)	心機能低下例における 頻脈性不整脈	β 1遮断作用(短時間作用型)	→	→	→	
ONO-7165	非小細胞肺癌	腫瘍抗原 MUC-1 由来 ペプチドワクチン	→	→	→	
ONO-4641	多発性硬化症	S1P 受容体作動作用	→	→	→	
ONO-3849	オピオイド鎮痛薬の使用に 伴う難治性便秘	μ オピオイド受容体拮抗作用	→	→	→	
ONO-7643	がん悪液質	グレリン様作用	→	→	→	
ONO-2745	全身麻酔	GABA A 受容体作動作用 (短時間作用型)	→	→	→	
オパールモン錠 (OP-1206)	手根管症候群	血管拡張作用	→	→	→	
ONO-4538	悪性黒色腫	完全ヒト型抗PD-1抗体	→	→	→	
ONO-7057	多発性骨髄腫	プロテアソーム阻害作用	→	→	→	
ONO-3951	過敏性腸症候群	κ オピオイド受容体作動作用	→			
ONO-6950	気管支喘息	ロイコトリエン受容体拮抗作用	→			
ONO-7056	固形がん	Rasシグナル阻害作用	→			
ONO-5163	二次性副甲状腺機能亢進症	カルシウム受容体作動作用	→			

開発品の進捗状況

海外

(平成24年5月9日現在)

製品名 (開発コード)	対象疾患	薬理作用	開発ステージ			
			PI	PII	PIII	申請
ONO-4641	多発性硬化症	S1P受容体作動作用	→			
ONO-4538	腎細胞がん	完全ヒト型抗PD-1抗体	→			
ONO-6950	気管支喘息	ロイコトリエン受容体拮抗作用	→			
ONO-4538	C型肝炎	完全ヒト型抗PD-1抗体	→			
ONO-7746	血小板減少症	トロンボポエチン受容体作動作用	→			
ONO-2952	過敏性腸症候群	TSPO (トランスロケーター プロテイン) 拮抗作用	→			
ONO-4053	アレルギー性鼻炎	プロスタグランジン D2 受容体拮抗作用	→			
ONO-9054	緑内障・高眼圧症	プロスタグランジン受容体 (FP/EP3) 作動作用	→			
ONO-4059	B細胞リンパ腫	Bruton's tyrosine kinase (Btk) 阻害作用	→			

※開発ステージについて

PI(フェーズI、臨床第I相試験)

同意を得た少数の健康な人で、安全性や体内動態の確認を行います。

PII(フェーズII、臨床第II相試験)

同意を得た比較的少数の患者さんで、有効で安全な投薬量や投薬方法などを確認します。

PIII(フェーズIII、臨床第III相試験)

同意を得た多数の患者さんで、既存薬などとの比較を行い、有効性と安全性について確認します。



仏セルヴィエ社

仏セルヴィエ社からIfチャンネル阻害剤「イブラジン」の日本における独占的な開発販売権を取得

平成23年9月、仏セルヴィエ社が慢性心不全を対象に欧州医薬品庁に効能追加申請中（2012年2月承認取得）の、Ifチャンネル阻害剤「イブラジン（一般名）」の日本における独占的な開発販売権を取得しました。



米 KAI 社（現米アムジェン社）

米KAI社からカルシウム受容体作動薬「KAI-4169」の日本における独占的な開発販売権を取得

平成23年9月、米KAI社（現米アムジェン社）から、維持透析下の二次性副甲状腺機能亢進症治療剤として米国で開発中の、カルシウム受容体作動薬「KAI-4169（開発コード）」の日本における独占的な開発販売権を取得しました。



米ブリistol・マイヤーズ スクイブ社

米ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と免疫療法剤および関節リウマチ治療剤について戦略的提携契約を締結

平成23年9月、がんを対象に米ブリistol・マイヤーズ スクイブ社（BMS）と開発を進めている免疫療法薬「ONO-4538/BMS-936558」に関して、当社が有していた北米以外での地域（日本・韓国・台湾を除く）における開発販売権をBMSに供与しました。また、BMSが全世界で開発販売を進める関節リウマチ治療剤「オレンシア[®]（アバタセプト）」の日本における共同開発販売権を取得しました。



国立大学法人東京大学

東京大学と新規創薬標的の探索に関する共同研究契約を締結

平成23年9月、国立大学法人東京大学と、脂質の網羅的解析（リポドミクス）による新規創薬標的の探索に関する共同研究契約を締結しました。



独メルク社

独メルク社と多発性硬化症治療薬 および がん免疫療法薬に関するライセンス契約を締結

平成23年10月、当社創製の多発性硬化症治療薬「ONO-4641」の、日本・韓国・台湾を除く全世界における開発販売権を独メルク社に供与しました。また、独メルク社が全世界で開発を進めているがん免疫療法剤「Stimuvax[®] (商品名候補)」の日本における共同開発販売権を取得しました。



米レセプトス社

米レセプトス社とGPCR結晶構造解析技術を利用した 創薬提携を開始

平成23年12月、生理活性脂質が関係するGタンパク質共役型受容体 (GPCR) の拮抗薬の創製を目指して、米レセプトス社と共同研究契約を締結しました。レセプトス社は、同社独自の結晶構造解析技術を駆使してGPCRの結晶構造の解析に取り組み、当社はレセプトス社が解明する構造情報を基に低分子拮抗薬の創製に取り組みます。



独スキルプロテインズ社

独スキルプロテインズ社とアフィリン[®]技術を利用した 創薬提携を開始

平成24年5月、タンパク質医薬品の創製を目指して、独スキルプロテインズ社と共同研究契約を締結しました。スキルプロテインズ社と当社は、スキルプロテインズ社独自のタンパク質創製技術(アフィリン[®]技術)を駆使してタンパク質医薬品の創製に取り組みます。



英バイオフィォーカス社

英バイオフィォーカス社と新規創薬標的の探索について 新たな研究提携を開始

平成24年5月、新規創薬標的の探索について、英バイオフィォーカス社と共同研究契約を締結しました。バイオフィォーカス社は、同社独自の創薬標的探索技術(サイレンスセレクト[®])を利用してアトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患に対する創薬標的を見出し、当社はバイオフィォーカス社が見出した創薬標的に対する作用薬を探索し、新薬候補化合物の創製を目指します。

TOPIC 1 医療情報番組の提供を開始



▲毎週 日曜日17:00～17:30 BS日テレにて放送中



◀パーソナリティの
八木早希さん

本年4月よりBS日テレにおいて、
医療情報番組「医療の扉」の
番組提供を開始しました

「医療の扉」は2部構成となっており、第1部ではさまざまな疾患をテーマに、治療や予防についてご専門の先生から分かりやすくお話をいただいています。また、第2部では、チーム医療や地域医療、最先端医療など日本の医療の今をご紹介します。

当社ホームページからも視聴できます。
ご覧のうえ、ご感想をお寄せください。

医療の扉 小野薬品

検索

<http://www.ono.co.jp/iryounotobira>

TOPIC 2 会社紹介ビデオを制作



当社の紹介ビデオを制作しました

享保2年(1717年)の創業から295年、当社は「病気と苦痛に対する人間の戦いのために」という経営理念のもと、薬業一筋に取り組んでおります。このたび制作した会社紹介ビデオでは、当社の歴史、現状と展望、そして研究・開発、生産、営業活動の詳細をご紹介します。

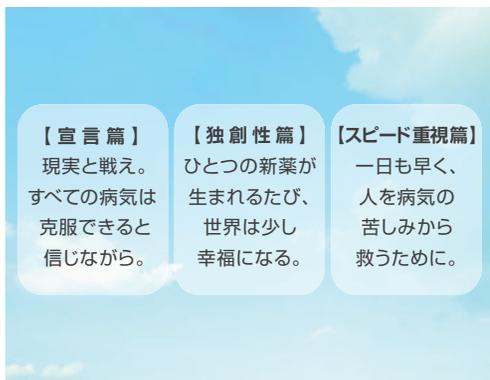
当社ホームページからご覧いただけます。

紹介ビデオ 小野薬品

検索

<http://www.ono.co.jp/jpnw/about/video.html>

TOPIC 3 新企業CMを制作



8年ぶりとなる新企業CMを制作し、 4月よりBS日テレ「医療の扉」内にて 放映を開始しました

新CM3本(宣言篇・独創性篇・スピード重視篇)は「願いをこめた新薬を世界のあなたに届けたい」という当社の想いを込めたものであり、それぞれのKeyメッセージは左のとおりです。

当社ホームページからも視聴できます。
ご覧のうえ、ご感想をお寄せください。

企業広告 小野薬品

検索

<http://www.ono.co.jp/jpnw/about/pr.html>

TOPIC 4 認知症医療サイトの紹介



認知症に向かい合う方々を応援する WEBサイトを立ち上げました

平成23年7月に、認知症の治療や介護に携わる人たちの声を広く発信し、ともに認知症について考えるサイト「笑顔とこころでつながる認知症医療」を立ち上げました。

一人でも多くの方が認知症医療について深く理解され、笑顔と共感を生み、社会に輪を広げていただけるようなWEBサイトになればと考えています。

笑顔とこころで 認知症

検索

<http://www.rivastach.jp/>

会社の概要 (平成24年3月31日現在)

会社概要

社名	小野薬品工業株式会社
英文社名	ONO PHARMACEUTICAL CO., LTD.
創業	享保2年(1717年)
設立	昭和22年(1947年)
資本金	17,358,275,607円
事業内容	医療用医薬品を主体とする各種医薬品の研究、開発、製造、仕入および販売
従業員数	2,754名(連結) 2,492名(単体)

主要な事業所

本社
大阪市中央区久太郎町一丁目8番2号(〒541-8564)
電話 06-6263-5670

[登記簿上の本店所在地 大阪市中央区道修町二丁目1番5号]

支店
札幌支店、仙台支店、東京第一支店、東京第二支店、
北関東支店、甲信越支店、横浜支店、名古屋支店、
京都支店、大阪支店、神戸支店、高松支店、広島支店、
福岡支店
(その他全国の主要都市に営業所等を設けています)

工場
城東工場(大阪府)、フジヤマ工場(静岡県)

研究所
水無瀬研究所(大阪府)、福井研究所、筑波研究所(茨城県)

海外子会社
オノ・ファーマ・ユーエスエー インク(米国ニュージャージー州)
オノ・ファーマ・ユーケー・リミテッド(英国ロンドン)

取締役

代表取締役 取締役社長	相良 暁
取締役 専務執行役員	栗田 浩
取締役 常務執行役員	川淵 和一十
取締役 常務執行役員	藤吉 信治
取締役 常務執行役員	佐野 敬
取締役 執行役員	小野 功雄
取締役 執行役員	高橋 文夫
取締役 執行役員	福島 大吉

監査役

監査役(常勤)	島田 重夫
監査役(常勤)	西村 勝義
監査役	間石 成人
監査役	荒木 靖夫

(注)監査役 間石成人および監査役 荒木靖夫の両氏は、社外監査役であります。

株式の状況 (平成24年3月31日現在)

株式数

- 発行可能株式総数 300,000,000 株
- 発行済株式の総数 117,847,500 株
(自己株式11,817,307株を含む)

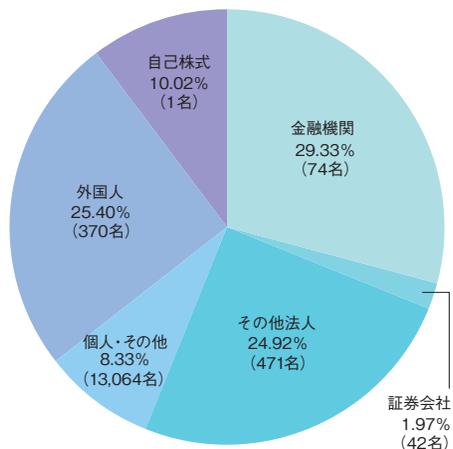
株主数 14,022名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	7,900	7.45
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,856	5.52
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,769	5.44
明治安田生命保険相互会社	3,718	3.50
株式会社 鶴鳴荘	3,298	3.11
公益財団法人 小野奨学会	3,285	3.09
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	2,458	2.31
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT-TREATY CLIENTS	1,780	1.67
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント	1,739	1.64
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,728	1.62

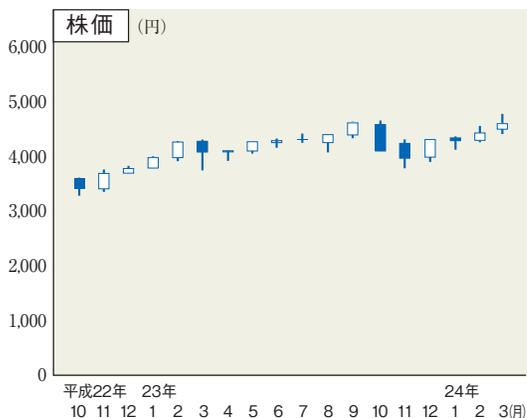
- (注) 1. 当社は、自己株式11,817千株を保有していますが、上記大株主には記載していません。
2. 持株比率は、自己株式(11,817千株)を控除して算出しています。

所有者別の株式分布状況



(注) 比率は、小数点第3位以下を切り捨てているため、各項目の比率を加算しても100%になりません。

株価および株式売買高の推移 (大阪証券取引所)



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	定時株主総会・期末配当：3月31日 中間配当：9月30日
公告の方法	電子公告により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 公告を掲載するホームページのアドレス http://www.ono.co.jp/
上場証券取引所	東京・大阪証券取引所（証券コード4528）
単元株式数	100株
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
各種お問合せ先 郵便物送付先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話 0120-782-031（フリーダイヤル）
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 全国本支店

- 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行にお申出ください。
- 未払配当金のお支払いについて
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。